

地域を支える PTA 社会教育 民生・児童委員 地方議会

野外活動 天候急変に備えを

野外活動が盛んになる季節。子どもたちが日常とは違った貴重な経験を積み重ねる機会であると同時に危険と隣り合わせの催しともなる。昨年6月には、浜名湖で手こぎ式のボートに乗っていた中学生が亡くなった。なぜ、こんな事故が起こったか。静岡県教委と愛知県豊橋市教委の調べからは、天気予報では十分にわかっていた風向きの急変があったなど、多くの教訓が残されている。

報とは全く違う南西からの風が吹いていた。一方、異なる天気予報もあった。午前10時の発表では、正午は西南西からの風が吹き、その後、

浜名湖・ボート転覆事故の教訓から

風向きが大きく変わる一日となった。最初は東からの風、そして南からの風、そして南からの風、今度は、南西からの風が吹くようになった。

事故後、遺族の元には、毎週のように教育長をはじめとする県教委幹部職員が訪ねて、対応状況を報告するなどしてきた。同県教委は、11月の施設再開を、遺族の了解を得て決めたという。

「活動自体は大切」

一方、愛知県豊橋市では、市教委が事故の経緯と再発防止策を記した報告書をまとめ、本年3月、市内の小・中学校に配った。

大きく変わった風向き 注意報発令知らされず

「前線の北上に伴い、気圧が下がり、低気圧と同様の状態となり、今回

業務は再開したもの

同青年の家は昨年11月に再び業務を始めたが、ボート体験は停止したまま

昨年度は業務再開後、学校による利用はゼロで、部活動の合宿や、企業の社員研修、ボイスアウト・ガールスカウトといった青少年団体などによる利用があった。宿泊、ウォークラリー、サイクリング、カニ釣りなどのプログラムへの参加といった利用だった。

豊橋市教委がまとめた

教訓は▽三ヶ日青年の家は転覆事故を想定してい

豊橋市教委がまとめた教訓は▽三ヶ日青年の家は転覆事故を想定して泊、ウォークラリー、サイクリング、カニ釣りなどのプログラムへの参加といった利用だった。

同青年の家は昨年11月

に再び業務を始めたが、ボート体験は停止したまま

昨年度は業務再開後、学校による利用はゼロで、部活動の合宿や、企業の社員研修、ボイスアウト・ガールスカウトといった青少年団体などによる利用があった。宿泊、ウォークラリー、サイクリング、カニ釣りなどのプログラムへの参加といった利用だった。

（福）

事故発生当日の風向き予測と実際の風向き

Table with 5 columns: 時間, 午前6時発表の予報(浜松市北区), 同10時発表の予報(旧三ヶ日町), 実際の風向き, 行動. Rows show time intervals from 9:00 AM to 6:00 PM with corresponding wind direction forecasts and actual conditions.

※静岡県教委の報告書に基づいて作成
※実際の風向きは観測所で測定したものであり、ボート体験の場所で吹いた風の向きと一致しない場合がある
※出発時には東からの風が吹いていたとの証言があった

既に梅雨入りしていた。両教委がまとめた報告書によると、事故はこのような経緯をたどっていた。異なる二つの天気予報
ボート体験プログラムを主体として行った静岡県立三ヶ日青年の家。所管する同県教委の報告書では、当日の天気予報と実際の気象の変化が詳しく記してある。

同日午前6時発表の天気予報では、正午は東からの風で、少しずつ南からの風に変わっていくと予測されていた。ボート体験を始めようとした頃は実際に東からの風が吹いていた。東風の時にたどるコースを使うことに決めた。

とていつか、出発してしばらくすると、東風は南風に変わった。ボートには横から波が当たることになる。転覆時には、予